

観察会報告

井川県民の森 キノコの観察会

横山謙二



朽木に生えていたアシグロタケ



集められたキノコを同定する

2023年10月1日（日）、井川県民の森にてキノコの観察会を行いました。今季は、残暑がきびしい日が続いていて、この日も平野部では、最高気温 30℃を超えるような日でした。それでも、標高の高いところにある井川県民の森は涼しく、少し寒いくらいの気温でした。

私は、観察会の少し前に、現地に到着し、事前にキノコの観察をしていましたが、こここのところ雨が少なく、地面が乾いていたこともあってか、あまりキノコは見られませんでした。

観察会開始時刻に近づき、9名の参加者が集まると、講師の池ヶ谷のり子さんの案内で、駐車場から少し離れた巨木の森で、観察会を始めました。午前中は、巨木の森を下るコースで、池ヶ谷さんに見つけたキノコの名前を教わりながら歩きました。

観察会をはじめ、しばらく歩くと、私は、朽ち木に生えている「シイタケ」らしきものを見つけました。シイタケのように見えますが、不安なので池ヶ谷さんに聞くと、間違いなくシイタケだと教えてもらいました。

その後も下り、今度は木の幹に黒く焼け焦げたような大きいキノコが生えているのが見られました。これは、その見た目通り「ヤケコゲタケ」と言うそうで

す（写真：表紙・裏表紙）。

お昼が近くになると、それぞれ採集したキノコを持って、駐車場に上がりました。午前中に集められたキノコは、約 20種ほどで、例年に比べると、少ない感じがしました。

その後、お昼を食べ、午後の観察会を始めました。午後の観察会は、巨木の森の登り側斜面の森を、ばらばらになって散策します。私は、朽ち木のまわりを中心にキノコを探しました。

散策では、平たい大きいキノコや白いぬるぬるしたキノコなどが観察でき、採集しました。池ヶ谷さんに後で教わり、大きい平たいキノコの一つは、根元が黒い「アシグロタケ」で、もう一つは「ヒラタケ」、白いキノコは「ヌメリツバタケ」ということがわかりました。アシグロタケは、一見、食用になりそうですが出汁にしか使えないそうです。もう一つの平たいヒラタケは食用でした。ヌメリツバタケは、富士山のキノコの観察会で以前に見たことがあったのですが、ここ井川県民の森では、初めて見ることができました。

午後の集合時間になり、参加者全員で集められたキノコを持ちより、池ヶ谷さんに同定してもらったところ、約 40種ほどのキノコが記録できました。